

---

---

# 「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」ニュース 47

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」 広報委員会  
〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階  
TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180  
E-Mail [csm-hq@eco-texj.co.jp](mailto:csm-hq@eco-texj.co.jp)

陽春の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

研究フォーラム・ニュース 47 号を配信させていただきます。

---

---

**2 月 18 日木曜、第 8 回理事会・総会が開催されました**

**3 月 18 日木曜、第 4 2 回セミナー開催が開催されました**

**5 月 17 日月曜・第 8 回国際フォーラム 2010 開催予定が発信されました**

---

---

## ＜2 月 18 日木曜、第 8 回理事会・総会が開催されました＞

2 月 18 日 16:00 より第 8 回理事会・総会が開催され平成 21 年度事業報告、会計報告、平成 22 年度事業計画、予算計画などの五議案は提案され、いずれも承認されました。

事務局長からは恒例になりました年一度の国際フォーラムが、本年度は 5 月開催になり、昨年一度中断した講演会後の懇親会も再開設定することなどが説明されました。

## ＜3 月 18 日木曜、第 4 2 回セミナーが開催されました＞

---

**講演：CSR の視点から、不祥事事例にみるリスクマネジメントの失敗**

---



前回・第 4 1 回に引き続き、経営倫理実践研究センターの萩原誠氏に CSR の大きな動向について講演をいただきました。

最近の注目すべき動きの中に、今年 10 月に名古屋で開催される「生物多様性条約・第 10 回締約国会議 (COP10)」があり、このことにも是非関心を持って欲しい。今話題になっているマグロの問題も

この課題に関連している、といった話題から次のような講演が始まりました。

「企業の社会的責任」に日本の企業が注目始めたのはISO化に動きだしてからだが、策定されているISOではガイドラインを示されるだけ。しかし、企業の社会的責任はISOだけではないことを知っておく必要がある。

このところ続いている企業の不祥事問題は日本だけで通用するスタンダードだけを考えていることによるリスクマネジメントの失敗と思われる。日本だけ、業界だけで「大丈夫」としても国際的には問題になることの例である。

今、CSRはリスクマネジメントになってきている、しかもトータルで。

企業はCSR観点から何をいつまでやるのかを探っている。経営が追い込まれるとコンプライアンスについて取り組むが、実のところあいかわらず混乱をしている。CSRの原点は法令遵守があたりまえ。

上場企業、大会社のCSRは10年前は株価をあげることが課題であったが、その後は環境問題から投資家対応へさらに、そして今は社会的責任に移ってきている。

社会的責任で取り組むべき課題は多くあるが、ヨーロッパでは人権と環境と、そして一番大きいのは雇用問題と考えられる。

企業によってその存在意義が違うように、会社ごとに社会的責任は異なる。

日本のCSRは「企業はすべての社会の公器」という基本に、それをどうしたら実践できるかということに着目し取り組むべきである。CSRは企業風土、企業文化＝企業価値観が土台であり、これが社会から信頼される風土になっているかがすべてであり重要なことである。

不祥事が起こるのはしかたがないが隠してはいけない。一度、不祥事が起こっていることが漏れたらむしろ大変なことになる。

今は、理念や創業の精神の徹底し、人を大事にする経営を見直すこと、リスクマネジメントの再構築、企業の強みと弱みを認識する、環境、自然との共生という環境分野への取り組みの再構築、労働人権問題への取り組みの強化などが日本企業のCSRの課題である。



CSRを考えるポイントのひとつは、企業の責任が今まで以上にグローバルになってきていること。さらに多様なステークホルダーに対して責任が問われること、情報公開や説

明責任を果たす組織の透明性を問われることであり、これらの責任を果たせないことがそのまま企業のリスクになる。これらを考えるとき、21世紀へのパラダイムシフトである「成長の時代から低成長の時代へ」、「資源は有限であること」、あるいは「資産価値も有形中心から無形中心へ」などを認識しておく必要がある。

トータルリスクマネジメントの構造は、「企業の持続性という目的から土台までのトータルリスク」、「コーポレート・ガバナンス」、「企業理念企業戦略の実践における経営リスク」、「定量管理定性管理の個別リスク」によって構成されている。

法令遵守はCSR経営の基本中の基本ではあるが、そのリーガルリスクよりも社会的リスクの方がダメージがむしろ大きい時代に入っている。その社会的リスクはマスコミリスク、世論のリスク、顧客リスクの三つに区分される。

今、企業文化（＝組織風土）はリスクの温床にもなる半面、リスクマネジメントの土台でもある。そこでリスクを極小化させる最も重要な三つの企業文化は、「コミュニケーションの活発な文化」、「学習に意欲的な文化」、「外の声に敏感な文化」であるとして、・・・萩原誠氏はリスクに強い企業文化のチェック項目を揚げ、聴講のみなさんに自社のチェック実施を説明され最後に、「正直で透明性があり、風通しの良い風土」が大切なことを話され講演を締めくくりました。

---

## 会員レポート：東京吉岡株式会社・CSM2000導入活動報告

---

コンプライアンス&サプライチェーン・マネジメントシステムCSM2000の導入活動に取り組んでいる東京吉岡株式会社・CSM2000委員会の会田裕一事務局長からその活動の報告がありました。

同社では一昨年11月の導入宣言に続きCSM2000委員会を組織し、全社員による導入活動が進められており、間もなく事前審査を経てTUVランドジャパンによる認証審査を受けること。日々の業務の中で工夫をしながら導入活動を実施し、CSM2000要求事項を満たしていくことで、これまで社内で個々に進められてきた仕事のノウハウも整理され、ルール化・標準化されることにより効果的な業務体制が構築されつつあり、今後は全社員により浸透、継続させていくことが課題であることなど苦労話も含め報告されました。





：セミナーの終盤では、2月下旬のドイツ出張でのEUでのエコロジー課題の取り組みなど最新の情報報告があり、さらに5月17日月曜に開催される国際フォーラム2010のプログラム説明等がありました。

---

## <第8回国際フォーラム2010開催予定>

第8回国際フォーラム2010開催予定が発表されました。

日時 5月17日月曜 13:30~17:15 (受付 13:15より)

会場 江戸東京博物館 1F 会議室

終了後、別会場にて懇親会開催を予定

プログラム、申込書など詳しくは <http://www.eco-texj.co.jp/news.html>  
をご参照ください。

---

## <第43回 フォーラムセミナー開催のお知らせ>

上記のように5月に国際フォーラム2010が開催されることから、次回、第43回定期フォーラムセミナーは下記のように7月のようになりました。

日時 2010年7月8日 木曜 14:00~17:00

セミナー終了後 17:00より懇親会

テーマは後日、連絡をさしあげます。

---

### 編集後記

- ・ 今号は3月に開催された主にセミナー内容について掲載いたしました。
- ・ 4月に入り事務局では国際フォーラム(5月17日開催)の準備に動いています。
- ・ 昨年は中止した国際フォーラム後の懇親会も会場がほぼ決まり、本会も含め多く皆様のご出席をお待ちいたしております。